KYOTO KEIKAN FORUM 2015 SYMPOSIUM

景観整備機構
NPO法人京都景観フォーラム
/活動報告会

2015.5.17 sun
京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム

主催：NPO 法人京都景観フォーラム
後援：公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター

目次 / CONTENTS

03　七条通界わいプロジェクト

04　2014 年度鴨川運河会議

05　柊野学区
冊子作成支援を通した景観まちづくり

05　嵐山地域の景観まちづくりの支援

06　屋外広告プロジェクト
「屋外広告物によるブランド形成を考える」その他

06　日台交流シンポジウム
「ポストモダン期をむかえた歴史都市の景観まちづくり」

07　京都景観エリアマネジメント講座

07　景観まちづくり専門家派遣事業

ごあいさつ

2008 年に始まった「京都市未来まちづくり 100 人委員会」から端を発した私たちの活動は 8 年目を迎えます。

京都の市民が自分たちの地域に誇りと愛情を持って、自主的に「景観まちづくり」を進めていく、そのためのきっかけづくりやサポートをしていくこと。また、それに関わることのできる専門家を育成して、ネットワークを作り広め固めていくこと。私たちの目標は当時と変わることなく、少しずつ形になってきたと思います。

昨年は京都市より、市では 2 番目の「景観整備機構」に指定して頂きました。私たちは、これからも切磋琢磨しながら、美しい京都の「景観まちづくり」を支える存在になりたいと思っています。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

理事長 / 内藤 郁子

執筆者紹介（五十音順）

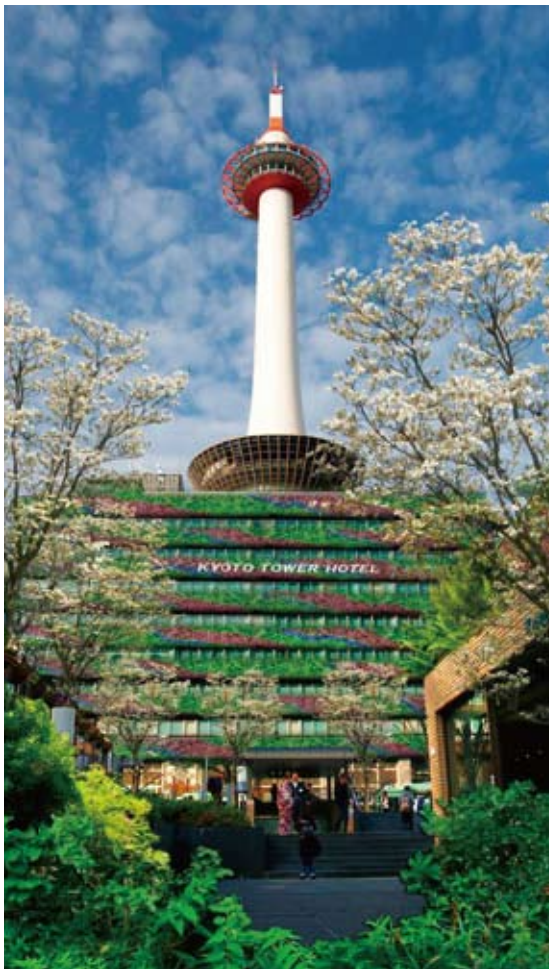
小林明音 p.6
篁正康 p.4,5
富家大器 p.6
中村伸之 p.3
森川宏剛 p.5,7
森本浩行 p.7
松本よし子（有限会社エイブル）編集デザイン

景観整備機構
NPO法人京都景観フォーラム
/活動報告会

発行 / 2015 年 5 月 17 日
FAX：075-491-9663
メール：kkf@kyotokeikan.org

1

2



3

七条通界わいプロジェクト

文：中村 伸之 *Nakamura Nobuyuki*

2013 年の七条大橋百周年をきっかけに七条通界わいに着目し、その歴史と未来を探り地域の皆さんとビジョンを共有するプロジェクトを行ってきた。

今年度は、芸術大学移転を核とした京都駅東地域のエリアマネジメント、界わいに居場所をつくり始めた人々のコミュニティや先進的な緑化事業など、七条通界わいに吹き始めた「新しい風」をフィールドワークし冊子にまとめ、ツアーを開催した。

プロジェクトの全容は冊子「七条通界わいの魅力を歩いて知って伝えたい」に譲るが、ここでは都市ブランドを形成する緑の景観づくりについて述べたい。

航空写真で七条通界わいを見ると、市街地なのに緑が多いことに気づく。緑は東山から山麓の寺院神社群・鴨川・高瀬川・東西本願寺・梅小路公園・東寺へと続く。自然と歴史がとけあった環境が、京都の景観の基盤にある。街に出れば店先や路地の緑や水鉢、お地蔵さんを飾る花など「歩く目線」で楽しむ緑の文化に出合い、さらには風土に根差し生物多様性を再現する実験的な植栽（写真 1：京都駅ビル緑水歩廊）や日本最大級の壁面緑化（写真 2：ヨドバシカメラ）など、環境の時代にふさわしい緑を発見することができる。

緑のネットワークが織りなす歴史と文化の物語。

環境モデル都市・京都の未来が見えてきた。また、京都アイデンティティにふさわしい緑化のあり方として「和の花」「都市借景」というコンセプトも提示した。

その一例であるが、京都の玄関である京都駅とその正面にある京都タワーはまさに京都の顔である。京都になじまない異物という意見もあるが、現実にあるものは活用せざるを得ない。ここで大胆な緑化を行えば、国内外からの来訪者が画像を拡散し、環境都市・京都のブランドイメージを世界に発信する「緑の名所」となるだろう（写真：3）。

議論を深め、京都発の都市緑化デザインの可能性をより本質的な風景に近づけてゆきたい

「京都市立芸術大学移転を核とした崇仁エリアマネジメント」では立上げワークショップに参加し、「歴史・文化・景観」の部会に協力した。地域のシンポジウムでは七条大橋や七条通界わいの景観まちづくりに関する発表をさせていただいた。

また、七条大橋は台湾総督府や台中州庁を設計した森山松之助が意匠設計した橋であることを台湾でのシンポジウムで発表したら、市民・研究者の皆さんが非常に興味を示してくれた。京都と台湾をつなぐ重要な架け橋でもあることが分かった次第である。

※本事業は、下京区「区民が主役のまちづくり」サポート事業と京都府地域力再生プロジェクト支援事業の助成を受け実施した。

2014年度鴨川運河会議

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

『カモガワウンガ100の視点』

深草支所からの受託事業として行っている鴨川運河会議では、平成25年度の活動を通して、冊子『カモガワウンガ100の視点』を作り上げた。本冊子は、鴨川運河の歴史、くらしとのかかわり、その使われ方、周辺環境との関係、橋のディテール、かつての痕跡、季節毎の様相…　などなどを、99点に絞って記載した内容となっている。鴨川運河の理解の仕方のあれこれを示すことで、この冊子に触れた者が、単なる琵琶湖疏水の一部であるという理解を乗り越えた、多様な見方を持つことへつなげられることを目指した。100個目の視点には、読み手自身が独自の視点を書き込める形としているのもそのためである。

1、『私の視点発見ツアー』で橋のマークに関心が集まる様子

私の視点発見ツアー

7月から8月にかけ、鴨川運河会議への導入のプレ企画として、冊子を片手に鴨川運河を見て歩き、自分自身の視点を探す『私の視点発見ツアー』を実施した。歩いたあとには、自身の視点を一点絞り、発表し合うこととしたが、それぞれのパーソナリティを反映した視点に、各参加者が多様な鴨川運河の理解を獲得することとなった(写真：1)。

鴨川運河会議

広く市民へ、鴨川運河の理解促進と、その魅力の維持向上活動への芽生えにつなげていこうとしたのが今年度の取組みである。深草地域を中心とした市民に呼びかけ、9、10、11、3月と4回にわたる『鴨川運河会議』がそのメインとなる。各回のタイトルを、

［第1回：疏水を語ろう］
　～カモガワウンガ わたしの視点～
［第2回：運河の地域に何ができる？］
　～全国の運河のまちづくりにヒントを探そう～
［第3回：魅力的な水辺空間づくりを
　実現させるには？］
　～熱意と行動でチャレンジへ～
［第4回：これまでのディスカッションや
　チャレンジを共有しよう］

とし、<『鴨川運河』の基礎知識を得る>→<参加者自身にとっての『鴨川運河』を考える>→<他の運河のまちづくり事例を知る>→<『鴨川運河』の将来像を考える>→<参加者各自のテーマを持ち、グループ化して活動につなげる>というような流れで一連の会議を行った。基本的に各回、前半にゲストスピーカーからのメッセージ、後半に参加者間でのワークショップという構成で実施した。3時間の長丁場にもかかわらず、「参加者からはもっと話したかった」「時間が足りなかった」などという感想も多く寄せられ、充実した時間を過ごすことができた。

話しを深める日

第3回鴨川運河会議終了時には、参加者それぞれが持つ興味をテーマに5つのグループができた。第4回までの約4か月間、お互いの情報共有、サポートの場の提供を目的に、『話を深める日』を3回開催した。この中で、参加者同士これまでの経験を共有し、具体的な活動像を描いてゆくことができた。ここから具体的な活動に結びついていった一例として、桜のライトアップがある。今年度実施が危ぶまれていた鴨川運河沿いの桜のライトアップを、各グループメンバーが統合的に協働することにより、関連イベントを含めた企画に高め、実施した。まち歩きのコースの一つには、送迎から専門家が付き添い、普段まちに出づらいお年寄りや体の不自由な方向けの企画があるなど、鴨川運河会議メンバーの多様性が活きた他と違う企画があったことなどが特筆される。

鴨川運河を舞台に、既存地縁組織を越えたまちづくりの主体的な担い手の育成と、徐々にではあるが、その連携を広げていくことができた点を、今年度の成果として挙げることができる。引き続きこれを拡大・充実していき、持続的な鴨川運河空間の活用、維持継承につなげていくことが目指される。

2、WSで鴨川運河の将来像について語っている様子

柊野学区
冊子作成支援を通した景観まちづくり

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

柊野学区では、平成 24 年度にまとめた『まちづくりビジョン』に基づき、「生活利便性」「産業」「安心・安全」「自然」「文化・教育」「コミュニティ」の 6 つのテーマのもと、推進活動が行われている。今年度はコミュニティ部門において、主に町内会未加入の若い世帯に向けた、柊野の良さを伝えるための冊子作りが行われ、その支援を行った。完成した A5 判 20 頁の冊子『歩いてみよう 柊野』は全戸配布され、地域理解の促進と愛着の醸成、そしてコミュニティへの加入率向上に繋がることが期待されている。

写真：冊子作成会議と写真展の様子

京都景観フォーラムとしては、「冊子をつくるお手伝い」という行為を通して、①自治連合会活動の担い手の拡大、②学区民への本活動の周知と参加促進、③当たり前にある景観の魅力への気づき醸成、などを支援の主眼とした。

①については、ビジョン推進過程で常に課題とされているため、自治連活動に関わりの少なかった新しい人材を発掘することとした。結果、新鮮な意見が飛び交う会議を行うことができ、また、このメンバーが『柊野ジモティーズ』を名乗り、今後も継続的に活動していく方向付けとなった。

②について、「コッソリ教えたい！　ボクのワタシの一押し柊野」とタイトルを付け、学区民から写真を募集し、集まった写真の展示・発表会を開いた。それぞれの写真の視点、意図を共有し、一部を冊子にも掲載することで、参加型の作成過程を通した冊子発行後の効果向上を狙った。

③について、柊野で多い、自家用車中心の暮らしで見失いがちな人の暮らし、また、それらが醸し出す景観を発見することを心掛けた。会議での厳しいブレーンストーミング、フィールドワークなどを通し、各人が改めて自分自身を掘り起こす中で、これまで気づかなかった多様な『柊野らしさ』が出てくることとなった。

本取組みは適宜、エリマネ実践講座受講生にも呼びかけ、外部者の専門的視点からの意見に、地域主体の新たな発見を促す機会とした。この気づきの数々が、今後の地域活動につながっていくものと期待される。

嵐山地域の景観まちづくりの支援

文：森川 宏剛　*Morikawa Hiroyoshi*

嵐山地域では、天龍寺隣接地へのオリックスの保養所の建設問題を端緒として、地域の景観を考える動きが始まった。このオリックスの保養所は、1 年以上に及ぶ周辺地域との交渉も受けて、当初の計画に比べ、約 2 m高さを抑え、道路からのセットバック距離を増やし、外構も建物の圧迫感を緩和するように前面道路や隣接地からの景観に配慮することで、地域住民からも一定の評価を受けるものとなった。

嵐山地域では、今後の長辻通り沿道や大堰川沿いの大規模敷地の土地利用の変化も見込まれる。オリックスの経験も踏まえ、地域で景観まちづくりに取り組む体制を作ろうとしている。景観フォーラムではこうした取組の支援を行っている。

嵐山景観まちづくりサロンの開催

嵐山地域の景観は、山、川などが絶妙な距離感とサイズで見える自然景観と、それに溶け込むように佇む社寺建築にその特徴を見ることが出来る。これらの景観に調和する建物や通りの景観づくりを進めようというのが当座目標とするところだが、まずは現状を知り、他地域の取組も知るところから始めようと、嵐山景観まちづくりサロンという勉強会を開催した。

今年度は 3 回、先斗町まちづくり協議会から事例報告を 2 回シリーズで、また京都市から景観政策について報告いただき、みんなで話し合う会を持った。

少しずつではあるが、これらの取組を積み重ねつつ、取組の輪を広げていけたらと考える。

写真：嵐山景観まちづくりサロン

屋外広告プロジェクト
「屋外広告物によるブランド形成を考える」その他

文：富家 大器　*Tomiie Taiki*

京都市の屋外広告物に関する情勢は 2007 年に開始された「新景観政策」によって大きな転機を迎え、現在重要な局面にある。規制を強化した市の施策は、広告ノイズの除去や、違法性の高い看板の発見撤去等については混迷する現代の京都市の景観にいわばカンフル的な一定の効果があったものといえよう。しかしながら、今後の景観を大局的にどうするのかといったヴィジョンの構築が課題である。広告物はまちの「活気や賑わい」との兼ね合いも出てくるだろう。また、規制するだけではなく、どのような看板であれば都市の魅力アップにつながるのかをトータルに考え、調査し、指針を見出していくような検討も重要である。

写真：「屋外広告物による都市ブランド形成を考える」冊子（2014 年発行）
この事業は、都市環境デザイン会議（JUDI）の助成を受けて実施しました。

このような背景を踏まえ、NPO 京都景観フォーラムと都市景観デザイン会議（JUDI）関西・関東ブロックの有志が共同で、「都市ブランドを創造する屋外広告物の研究（京都の歴史的市街地を対象として）」プロジェクトを立ち上げ、活動を開始した。今年度は姉小路通り、三条通、先斗町、木屋町といった通りを手始めにフィールドワークして冊子にまとめたが、調査研究はまだ端緒についたばかりである。今後、地域住民、事業者など多岐にわたる関係者との協議なども必要と思われる。また、市の屋外広告物適正推進室の主催する「京都市屋外広告物デザイン力向上講座」への出講などにも協力をしている。景観整備機構に認定された団体として、屋外広告についても、市民視点で生まれた京都景観フォーラムとしての役割にますます大きな期待が寄せられていると感じている。

日台交流シンポジウム
「ポストモダン期をむかえた歴史都市の景観まちづくり」

文：小林 明音　*Kobayashi Akane*

京都の都市基盤は、明治後期の「京都市三大事業」（道路拡築・市電敷設、第二琵琶湖疏水開削、上水道整備）で形づくられた。四条大橋と七条大橋の意匠デザインは、台湾総督府をはじめ台湾に多くの官庁建築を残した森山松之助が担当するなど、当時の都市基盤には台湾との相互関係が見られる。七条大橋や鴨川運河など、近代化遺産のある景観まちづくりへの関わりを契機に、同時代に日本が統治した台湾の近代化遺産の現状を知り、実際に活動を担う方々と交流するため、当 NPO 初の国際交流事業を行った。

写真：シンポジウム参加者（2014 年 12 月 23 日東海大学にて）
この事業は、公益財団法人交流協会、都市環境デザイン会議（JUDI）の助成を受けて実施しました。

今回の訪台では、台湾東海大学日本地域研究センター、及び、同建築研究センターが主催するシンポジウム「京都・台中　ポストモダン期をむかえた歴史都市の景観まちづくり」（2014 年 12 月 23 日）に参加した。また、翌日の 12 月 24 日には、日本文化研究者や建築やまちづくりの専門家、活動家らと交流し、近代建築の再生と活用の事例を視察した。シンポジウムでは、建築、ランドスケープ、まちづくり、文化などの多分野に渡り日台の現状を共有し、都市景観を切り口に縦横に議論した。日本地域研究センター長の陳永峰氏からは、「対処療法ではなく元々あった価値を再生することが、現代の社会問題への打開策となるのではないか。お互いが解決策を知る「鏡」となるであろう。」と講評頂いた。日本統治時代に形成された台中市旧市街地の視察では、近代建築を魅力ある形でリノベーションし、空洞化の進む都市中心部を若者やアートの力で活性化しようと活動している方々に出会った。歴史を受け止め、今の自らの価値観を見出し、推進力を持って行動する姿に大変感銘を受けた。今後の NPO 活動にも参考にさせて頂きたいと思う。

京都景観エリアマネジメント講座

文：森本 浩行　*Morimoto Hiroyuki*

素晴らしい景観とそれを守ってきたまち、京都。景観と人と文化の関わりを学ぶ講座である。「景観まちづくり」を進める際には、その地域の歴史や文化、経済の状況、人々の暮らし方などのさまざまな情報を読み取ることが必要である。そうして地域住民の価値観を景観に結実させていくことが求められている。本講座では、こうしたプロセスに関わる各方面の専門家を養成することを目的に、景観まちづくりに関する幅広い分野の基本的な知識を学んでいる。

本講座は、景観とは何かという基礎理論から、京都のまちの特性と歴史を学ぶとともに、建築や土木・ランドスケープ、政策や法律、まちづくりなどの理論や考え方などに視野を広げつつ、日本人の美意識や作法も取り入れている。基礎講座では全8回を通じて「景観まちづくり」についての基本的な視点を身につけ、実践講座ではフィールドワーク、ワークショップなどを通じて、景観まちづくりを支援するための姿勢と技術を学ぶ。修了後、「京都景観エリアマネージャー」として登録すれば、当法人の景観まちづくりの活動に取り組むことができる。

現在までの基礎講座の受講者数は141名（単回のみの受講者を除く）、実践講座の受講者数は53名、京都景観エリアマネージャーの登録者数は48名となっている。

今後もさらに景観を学び、地域の「景観まちづくり」を支援する専門家が増えることを期待している。

平成26年度
カリキュラム

□第5期 基礎講座（通年受講者25名）

	テーマ	講師
第1回	基礎理論（1）	堀繁氏
第2回	基礎理論（2）	宗田好史氏
第3回	京都のまちの形成と景観史	高橋康夫氏、中川理氏
第4回	土木と景観デザイン	山田圭二郎氏、篠原修氏
第5回	京の生活文化	谷晃氏、仲隆裕氏、笹岡隆甫氏
第6回	建築とランドスケープ	江川直樹氏、佐々木葉二氏
第7回	景観政策と法律	飯田昭氏、石田光廣氏
第8回	景観まちづくり・修了式	髙田光雄氏

□第4期 実践講座（受講者13名）

	テーマ	講師
第1回	景観	堀繁氏
第2回	色彩	渡辺安人氏
第3回	ファシリテーション	中田豊一氏
第4回	修徳学区のまちづくり	門内輝行氏
第5回	ワークショップ	京都景観フォーラム
第6回	レポート発表・修了式	髙田光雄氏

景観まちづくり専門家派遣事業

文：森川 宏剛　*Morikawa Hiroyoshi*

京都景観エリアマネージャー（以下、エリマネ）は、平成26年度末で登録者48名となった。景観フォーラムでは、エリマネの活動の一つとして、地域や公的機関などの要請に応じて、専門家の派遣を行っている。

平成26年度は、以下のように14件、のべ21名の派遣を行った。認知度も経験もまだまだというところだが、エリマネの陣容も徐々に充実してきており、研究会等にも取り組みながら、その専門性に磨きをかけること、まちづくりの協働の作法を身に付けることを大切にしながら、活動を広げていきたいと考えてる。

写真：パレット河原町商店街振興組合のワークショップ

◎専門家派遣の実績

［平成26年］

6月	第7期京都市無電柱化推進会議委員	（1名）
6月	柊野ビジョン推進委員会アドバイザー	（2名）
9月	第7期京都市無電柱化推進会議委員	（1名）
9月	嵐山地域まちづくり相談	（1名）
10月	嵐山地域まちづくり相談	（1名）
10月	京都市地域景観づくり講座ファシリテーター	（2名）
10月	彦根景観シンポジウム「文化遺産を活かして住み続けられるまちへ」講師	（1名）
11月	嵐山地域まちづくり相談	（1名）
11月	待賢まちづくり委員会まちづくり相談	（1名）
11月	東山区元吉町まちづくり勉強会	（1名）
11月	東山区元吉町まちづくり勉強会	（1名）
12月	京都市地域景観づくり講座講師	（1名）

［平成27年］

1月	建築協定連絡協議会勉強会ファシリテーター	（1名）
2月	京都市景観市民会議ファシリテーター	（2名）
2月	柊野ビジョン推進委員会アドバイザー	（2名）
3月	京都市屋外広告物デザイン力向上講座講師	（1名）
3月	洛西ＮＴ交流フォーラム“住まいと景観チーム”ファシリテーター	（1名）
3月	パレット河原町商店街振興組合ワークショップ企画立案及び運営	（4名）

KYOTO KEIKAN FORUM

NPO法人京都景観フォーラム
http://kyotokeikan.org/
FAX : 075-491-9663
MAIL : kkf@kyotokeikan.org

発行日 /H27.5.17